

池田市総合計画審議会 健康福祉・教育部会③ 議事要旨

日 時：令和3年12月6日（月）10：00～12：00

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：（外部委員）

池上部会長

荒木委員、田和委員、林委員、茂籠委員（50音順）

（内部委員）

岡田委員、石田委員、田淵委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、川本

<関係部>

市民活力部 高木、福祉部 綿谷、病院事務局 衛門、管理部 亀井、教育部 大賀

傍聴者：0名

1. 開 会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

2. 案 件

（1）「子どもと大人の未来を育てるまち」及び「いきいきと暮らし続けられるまち」に関する主要意見等について

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

それでは、案件（1）に関して、審議を進めていきたい。

本来であれば、内部委員の皆様にも積極的にご発言いただき、一つ一つの質問に対してもう少し議論を深めるべきだったかと思うが、たくさんのご意見も出ており、このような形で事務局の方から対応方針についてご提起いただいております、一括してのご審議になることをまずお詫びしたい。

一つ目、「子どもと大人の未来を育てるまち」に関する主要意見と対応方針案について、議論していきたい。これに関して市の担当部局や事務局から説明や補足等があれば、お願いしたい。特にご発言はないか。

（意見等なし）

委員の皆様、このシートは初めてご覧になると思うので、まず1枚目、「子どもと大人の未来を育てるまち」に関する対応方針について、5分程度でお読みいただき内容を確認していただきたい。

(5分間、資料確認)

では、そろそろ議論に移っていきたい。

この対応方針案について、事務局ないし出席の委員に確認されたいところはあるか。

<外部委員>

内容の前に、この資料の●印のことで確認したい。文章を書き換える、追記する、削除するという文言があるものは、それがそのまま反映されると思うが、その内容が書いていない、「今はこういうことをしている」「こういう考えだ」みたいな説明は、これをもって文言の変更はしないという理解でよいか。

<事務局>

内容として修正を書かせていただいているもの以外については、ご意見の粒度合いによって、そのまま反映させていただきそうなものについては、検討させていただけるかと思う。

様々に広くご議論を頂戴している。例えば、ご意見を参考に今後取組を継続したいというものは、総合計画の下にある計画に置き、実際の事業展開において、そういった点を留意する、というようなことが考えられる。

ただ、そういった部分で、実際に反映しきれないかということ、やはりニュアンスというところがあるので、引き続き検討の余地があると考えている。

<部会長>

委員の皆様から出てきている意見が、市政全般を俯瞰したような大きな意見から、とても市民に身近なところの課題に対応するような、丁寧な、きめ細かい意見まである。総合計画の中で語るのか、各分野の計画の中で反映していくのか、取組として反映していくのかという辺りが、少し精査が必要であり、全部そのまま文言を修正するような状況ではないという説明であったかと思う。荒木委員、よろしいか。

<外部委員>

理解した。

それを踏まえて、(1)「子ども・子育て支援の充実」の「母子包括支援」のところだが、男性の育児参画についてという提案をして、「母子包括支援」を「子育て世代包括支援」に書き換えるということでご検討いただいた。ご検討いただいたのこれだとは思いますが、表題だけを変えて中身は何も変わっていないのであれば、あまり意味がないかと思う。

特に取組方針や現状と課題の中でも、基本は妊産婦や「母子が孤立しないよう」「産前産後の母親の心身の健康の保持増進」というのは、もちろんこれはこれで大事なのだが、そのためにも男性の育児参画が必要だということをお伝えした。この辺りの課題に対して、どういった検討の結果、表題だけを変えるという結論になったのか、教えていただきたい。

<事務局>

本日、担当部長が出席していないので、その内容は持ち帰らせていただき、ご報告させていただきますたい。

おそらく中身の方も検討させていただくと思う。

<部会長>

答弁できる担当がおられないということで、宿題ということで、置かせていただく。

補足意見に対するご質問や確認、他の部会から出てきたご意見も踏まえて、また新しい視点でのご発言でも結構なので、何かお気付きのところがあれば、ご意見をいただきたい。

<外部委員>

(2)「学校教育の充実」の「教育内容」で、外国人の子どもに対し、親がプリントを読めないことがある場合の対応が「通訳の派遣や翻訳したプリントの配付をおこなっているところ」という記載がある。確かに対応していただいていると思うが、これは大変なことだと認識している。外国人のご家庭全てでなくてもいいとは思いますが、言葉が不自由で理解できない家庭については、プリントは翻訳されたものが配付されているということなのか。一部だけなのか。そのような人達に、丁寧なケアができているのかというところを少し知りたい。

<外部委員>

外国籍であれば、市役所の方でおそらく把握していると思う。私自身は帰化しているので、外国人へのケアは届かない。外国人であること自体を把握されていないと思う。

<外部委員>

なかなか把握が難しいということだと思う。この場合、学校教育だと、おそらく先生方が把握されている場合も多いかと思う。その場合は、お母さんの日本語の能力を把握されて、漏れなくお伝えできているのかが重要になる。

難しい問題なので、全部やっていただきたいというつもりはない。把握をされて、どのようにしていくつもりかが大事になる。翻訳したプリントを配付している。ということで、いいのかというところが少し気になったので、その点の実態を踏まえて、お考えを教えてくださいたい。

<関係部>

多言語対応が、英語などではなく、インドネシア語や中国語などへの対応が今課題となっている。正直なところ、「翻訳したプリントの配付を行っている」と言い切るのは、難しい部分である。

配付を行うように努力しているといった部分ではあるが、保護者の学級懇談会や参観日など、直接動きに関わる部分については丁寧に行っているところである。

あと、各校にポケトークという翻訳機も配っている。例えば、電話対応等で可能な限り学校での動きが正確に伝わるように努力、取組をしているところである。

<外部委員>

そういうことをここに反映していただくことが大事になる。「行っている」というと、どこまでできているのかと思うし、全てはできていないのだろうと容易に想像が付く。

先ほど林委員からも、「様々な家族構成があり把握が難しい」と、お話があった。市としての方向性なり姿勢をここに反映されると、皆様のされている努力も理解されやすいのではないか。

<部会長>

まちづくりのところで、の取組という辺りで、出てくる可能性がある。一人も取り残さないという姿勢を、今回の総合計画の中で真ん中に立てていくとお聞きしている。

学校教育において、クラスの学級通信みたいなものまで全部翻訳するのかという話も出てくるとは思うが、学校教育だけではなく、母子保健、大人の健康の辺りにおいても、誰も取り残さないという辺りをどう捉えていくのかというのは、ここだけの議論ではないと思う。またあとで、まちづくりの中でも一緒に検討していきたい。

<外部委員>

国際理解教育について、「取り組んでいる」と書いているが、「取り組んでいる」とは具体的に何件なのか。例えば、小学校・中学校で実際に外国理解教育、国際理解教育に取り組んでいる様子は、具体的に見えてこない。国際交流センターに関しては、Facebookでまめにチェックしているつもりだが、見えてこなかった。以前、渋谷高校に出向いて外国人の人が少し話をした、というのを1件だけ見た記憶がある。「取り組んでいる」というのは、具体的に、例えば、どのぐらい、どのように取り組んでいるか見えるようにしていただくと、市民として安心してここで生活していける。

<部会長>

今のご発言は、「学校教育の充実」の「外国にルーツのある子どもの文化を紹介する機会を設けることで、相互理解に繋がるのではないか」に対する回答のところのご発言でよろしいか。

<外部委員>

そのとおりである。

<部会長>

「各校で、外国の文化にふれたり調べたりする等、国際理解教育に取り組んでいるところ」というところか。

<外部委員>

そのとおりである。

<部会長>

取り組んでいるのかどうかというのが、あまり見えてこないというご発言の趣旨でよろしいか。

<外部委員>

そのとおりである。

それと「多文化共生社会づくり」もそうなのだが、例えば、日本語教育に関して、これは外国人市民にとって切実な問題で、言葉が通じないと生活しにくく、様々な支障が出るということが明らかになっている。

ここで「中級レベル向けの日本語教室も実施している」とある。おそらく土曜日の教室のことを指していると思う。これだけではなく、全ての支援サービスにおいて、ニーズ調査・満足度調査を一つのエビデンスとして、市として把握しておく必要があると思う。

<外部委員>

(2)「学校教育の充実」の上から四つ目、これ以外もそうなのだが、「子どもにアレルギーがあっても、安全で、安心してみんなで同じ給食を食べられるようにしてほしい」という回答が、今現在の対応可能な方法で行い、今後もそれを行っていく、いわゆる現状維持という回答になっている。総合計画の議論をしているのに、10年間現状維持と言うてしまうのか。今後できること、できないことはもちろんある。設備的に無理など、課題はあると思うが、今がベストで、このままこれでいいと読み取れてしまうのが非常に残念な気持ちになる。

質問に対して、「今こうだ」という回答ではなく、「今後どうしていきたい」という話がなされればいいと思う。他でも「今はこうだ」という回答に対しては、「今後どうしていく」というところを、どうお考えになっているのかをぜひお教えいただきたい。

<関係部>

荒木委員のおっしゃるとおりだと思う。

ただ、この総合計画というのが、今後5年、10年で、できもしないような計画というのは、さすがに落とし込むのは難しいだろうと思う。

その背景にあるのは、今の学校給食センターは、去年の8月に開始したところで、市内の小学校・中学校の全てを同時に網羅する学校給食となっている。箕面市のように自校で調理という規模であれば、様々な工夫ができる。例えば、特定の原材料を除外した給食の提供も大いに可能かと思う。ただ、市内小中学校全体を同じメニューでという話になるので、なかなか困難である。

検討をするといっても、自校方式で展開をしていくことはさすがに現状では難しい。このご質問に対する答えとしては、給食そのものの充実や、改善はしていかなければならな

いと思っている。そういうアプローチの中での表現方法の工夫は、当然必要という考えである。

<外部委員>

できること、できないことはあると思う。みんなが同じものを食べていないが、安心・安全をどう捉えるのか、感覚の問題だと思う。そこはソフト面でどう対応していくのかということだと思うので、ぜひできることを工夫・試行錯誤していただきたいと思う。その辺のニュアンスが文章に出てくると非常によい。ただ、おっしゃるとおり、中途半端な希望を抱かせても、それはそれでよくないし、無責任だとも思う。試行錯誤していききたいなところは、ぜひご検討いただきたい。

<部会長>

総合計画ではどこまで表現するのか。各分野別計画ではどこまでカバーするのか。総合計画の流れの中で、どの位置付けの部分までを取り扱っていくのか。一旦整理が必要ではないかと感じている。

おそらく他の部会でも、非常にたくさんの意見が出ていると思う。こういうところまでは総合計画で表現していく。そして、ここの部分については下位の各部門の計画で今後表現していく。もっと細かい辺りについては、その事業計画や予算を組むときに、企画をして、こういうところで評価をしていく。ある程度はそこを見える化した方が、今後この部会での議論を進めていくだけでなく、市民の方がご覧になったときに、より読みやすく、分かりやすい計画になってくると思う。その辺りも事務局でご検討いただきたい。

先ほども言ったように、様々な部会で市民目線の丁寧な課題への対応について議論されていると思う。そこを全部落とし込んでいくと、最初のコンセプトである市民の皆様に分かりやすい計画になる。そういう辺りを一旦整理していただくのも必要かと個人的な意見として感じた。

その他に何かご意見はあるか。

<外部委員>

(3)「生涯学習活動の推進と郷土愛の涵養」、三つ目と四つ目のボランティアのことにに関して、ボランティアという表現よりも、「共助」という視点で重要であるということを書いていただいている。そこはそのようにしていただけたらと思う。

学校教育との連携の面の、次の課題の箇所について、「ボランティアを前提にするのは教師の負担を誰かに転嫁しているだけであり」というようなことが書いてある。ここでの議論は、学校での取組に対して地域の支援をどれだけ入れていくかという話であり、ボランティアにするか、賃金を出して行うかは、次の話かと思っている。こういう書き振りだと、ボランティアではだめで、共助という本質的な部分の議論を飛ばしてしまっている気がする。本質的なところをご理解いただいているのか少し心配になった。「部活動を地域に移行させる取組みについては、賃金が発生する活動として位置付け」というところを、そこまで強調する必要があるのか。そうではなく、熱意ある方を発掘し、今後受益者負担の方

法についても考えていくという形で、有償か無償かに論点を持ってこなくてもいいのではないか。要は学校での活動に地域の人がいかに関わっていくか、それをみんなで支えていく共助の考え方というところに留めておけばいいのではないか。

<部会長>

ソーシャルキャピタルを醸成して、その地域の力を上げていき、そのことにより教育だけではなく、健康づくり、福祉的側面、今課題になっている地域包括ケアシステムの構築にも、地域というキーワードで協働して、共助の体制が作れる。ここでは教育のことを語っているが、有償ボランティアという言葉を使うことで、せつかくの共助の体制作りの色が少し違ってしまわないかということに危惧されているご意見かと思う。

大量の資料を、今が初見ということなので、後日お気付きの点もあろうかと思う。時間の関係もあるので、前に進めさせていただきたい。

案件（１）の「いきいきと暮らし続けられるまち」に関する対応方針、これをご覧いただいて、同じようにご意見をまとめていきたいと思う。この件に関して、事務局又は内部委員の方から、特にご説明はないか。

（意見等なし）

では、お読みいただき内容を確認していただきたい。

（５分間、資料確認）

では、３本目の施策の柱「いきいきと暮らし続けられるまち」に関する主要意見とその対応方針案について、議論を深めていきたい。

何かお気付きの点、事務局等にご質問のある方はいるか。

<外部委員>

（１）「地域共生社会の実現」の「全体」のところだが、災害時の対応については、もう少し横断的に取り扱う方がいいということに対して、地域生活環境・まちづくり部会へ移管するということが書いてあった。それはそれでいいと思うが、その下の「自助・共助・公助といった視点から、「地域共生社会」の施策として扱うこともありうる」ということに対して、これもまちづくり部会に移管するという事になっているが、これはどういうことを移管して、そちらで話し合うということを示しているのか。少し具体的に教えていただきたい。

<事務局>

まちづくり部会の方に移管して、審議させていただきたいと思っているのが、自助・共助・公助のあり方という視点なので、もちろんこういった「地域共生社会の実現」、もう少し

し広くすれば福祉全体、また、ここで取り扱う男女共同参画等もそうなのだが、そういったそれぞれの施策シートにおいて、そこに書き切れない部分や、相互のシートを意識して書かないといけないというような、ニュアンスを加えた表現の仕方については、こちらの方でアプローチさせていただくことになると思う。その自助・共助・公助の視点からの、向こうからこちらへのアプローチというところは、地域生活環境・まちづくり部会に移管してから、意識させていただきたい、取り上げさせていただくということで、審議させていただこうと考えている。

<外部委員>

確か「地域共生社会の実現」という表現がどうなのだろうかという議論があったかと思うが、それについては、そのままここに残しておくという認識でよいか。

<事務局>

先だっでご議論があった地域共生社会というようなものは、厚生労働省から出され、ある一定段階から広がり、それによって定義付けもされているところである。それが今後5年、10年で、この形でいいのかという概念の固定化も含めて、前回部会で申し上げたかと思う。

計画を作成したタイミングで、偶然生じたトピックを入れるのではなく、即応性や柔軟性という形でさせていただくという側面から、この施策名称は、変更させていただいた方がよいと私どもは認識している。

<部会長>

「全体」の一番上について、「めざす姿」にある「人権文化の高まり」といった表現が、この「地域共生社会の実現」のところに代わりうるのではないか、そちらの方向も兼ねて、加えて検討するという回答だが、(1)の施策の名称自体が変わる可能性が大きいという状況なのか。

<事務局>

地域共生社会というと、全ての施策に関わるものなので、横串的な位置付けかと思っっている。この名称を少し変え、人権や多文化、多様性という方向に行きたいということである。

地域生活環境・まちづくり部会へ移管というのは、自助・共助・公助の危機管理面の部分についてである。具体的に言うと、要支援者や子ども関係の危機管理の部分については、この部会の方へ移管し、審議してもらってはどうかということを書かせてもらっている。

地域共生社会という中には、災害、環境面、その他様々なことがあるので、今回「まちづくりの進め方」という横串の部分でご審議いただきたい。

<外部委員>

理解した。

<外部委員>

そういう意味では、自助・共助・公助ということが、この「地域共生社会の実現」の中でも議論できるが、それを議論するということか。

<事務局>

そのとおりである。

<外部委員>

我々が今扱っている、「まちづくり」や「いきいきとした暮らし」を実現するためには、行政だけでカバーできるものばかりではなく、市民の力と協働して行わなければいけないところは必ずある。それが、ここで書かれている「自助・共助・公助」の概念かと思う。そのような視点が漏れないよう、この三つの考え方、その視点というものを議論しておいて、施策に反映しておく必要があると思う。

<部会長>

その他のところで、若しくは、今のご意見に関して、何か追加のご発言はないか。

<外部委員>

「多文化共生社会づくり」の一番上に「ダイバーシティセンターが国際交流センターの代わりに役割を引き継ぐ」と書いてある。ダイバーシティセンターの名称自体、外国人には理解しにくいのではないか。

<部会長>

ダイバーシティセンターを外国人の方はどんなふうに理解されるのか。

<外部委員>

おそらく何も意味は分からない。何かダイバーの、海の、飛び込むなど、そういうものだと思ってしまう。

<部会長>

これは英語ではなかったらろうか。

<外部委員>

英語圏でない方が多いということを考えると、片仮名語を少し変えるという意味か。

<外部委員>

片仮名だと、ダイバーを教える、飛び込む技術を教えるセンターかと思う。おそらく、それを見て関係ないと思い、素通りするという形になるのではないか。

<外部委員>

ダイバーシティという英語があるので、分かる方は分かると思うが、やはり何か少し工夫をした方がよい。おそらく他の行政でも色々使われている言葉があると思うので、そこから紐解くと何か解答が得られるのかもしれない。

<外部委員>

「男女共同参画の推進」のところは、ダイバーシティやLGBTQ等、様々な意見が出て、色々検討していくということで記載が多くある。これが最終的に計画にどのように反映されるのか、少しイメージが湧かない。大幅に変わるイメージなのか。大枠は今までの記載通りで、少し微修正して、実際に中身を検討していく中で、こういったことを検討していくということなのか。どのように反映される予定かを教えていただきたい。

<関係部>

正直申し上げて、変更というのは難しいかと思うが、中身の方で反映できるように努めていきたいと考えている。ただ、若干表現を変えるところがあれば、検討したいとは考えている。

<外部委員>

表現はこのままということか。

何か、SDGsで誰一人取り残さないということを大きく掲げているのに、この文言のままだと違和感があるというのが正直な感想である。

<外部委員>

もう少し表現を工夫される方がいいかと思う。多様な人たちの参加、誰一人取り残さないという表現では、少し対応できない部分があると思う。

例えば、男女共同参画の価値については、誰も反対する者はないと思うが、その表現をもう少し工夫することによって、私や荒木委員がおっしゃっていることに対応できるのではないかと思うので、もう少し考えていただきたい。

<部会長>

この部分については、再検討をしていただきたい。

<外部委員>

同じ男女共同参画の「アファーマティブアクションについては、LGBTQから考えていく方がいい」とある。これは私の発言だが、その対応が、「性別や人種による差別に対する措置については」「相談体制の充実に向けていく」とある。私が申し上げたのは、男女共同参画というのはとても大事だが、男性・女性という、ジェンダーだけのニーズで物事を考えると、色んな問題が出てくるので、多様な概念であるLGBTQから、こういうこと

を考えていけばどうかという提案である。対応方針で回答がずれているところがある。これは一つのアイデアなので、その対応ができなければ、消していただいてもよい。

ただ、考え方としては、今までの議論もあったように、男女という問題だけで整理して格差を是正するよりも、多様な立場の人たちがいるので、そこから性差や性に対する多様性を考えていった方がよいのではないかという提案である。

<部会長>

今後10年間、どんどん社会が前へ進んでいくわけなので、一旦ここでそういう議論があってもいいのではないかというご提案をいただいた。

私からも発言させて頂きたい。

「全般」の上から6番目の「健康いけだ21」が分からないというご発言に対して、用語や脚注などで対応していくということだが、そもそも「健康いけだ21」とは健康づくり計画ということで、市民の皆様にも参画していただき、こんな取組を進めるという市の分野別の計画だが、これが分からないので脚注が必要ということ自体がとても残念であり、その分野別計画が分からない言葉に甘んじていいのかという疑問がある。

それぞれの計画があって、総合計画があるという中で、関連する分野別計画というのは、それぞれのシートの中に落とし込まれてきたときに、その分野別計画が実際に動いていなければ、総合計画が動かないであろうと思う。それぞれの分野別計画がきちんと動いているかどうかは、総合計画の中でもチェックしていくべきではないか。ここは脚注という問題なのかが少し引っかかる。

たまたま「健康いけだ21」という言葉が出てきたが、総合福祉計画などの様々な計画がちゃんと進行して初めて総合計画が生きてくる。下位の計画の進行管理はちゃんとできているのか。この総合計画の審議会でも議論すべきことではないかもしれないが、市の持っている計画自体の知名度が低いというのをそのままにしておいてよかったのか、少し気になった。

その他にご意見はないか。

では、次の案件に移っていきたい。

(2) 第7次総合計画前期基本計画におけるまちづくりの進め方について

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

事務局から第7次総合計画前期基本計画におけるまちづくりの進め方の案について、説明をいただいた。何かご質問等はあるか。

<外部委員>

施策は毎年評価するということだが、逆にいうと、各施策における、より詳細な計画というのはどこかで立てて公表するという考えでよいか。

<事務局>

先ほど申し上げたように、事業単位でその時々の特ピック以外の課題等に対応した重点的なテーマを組ませていただく。

その施策全てに事業がぶら下がるので、その事業を組み合わせた形で施策若しくはテーマの進捗を図らせていただく。すなわち、ぶら下がる事業、計画、全てが詳らかになる。そこが毎年の行政評価の中で、進捗が図られていくことになっている。

これまで500件ほどの事業を対象として評価を行っている。それ相応の作業量となっている中で、それをすること自体が目的となってしまう、その結果に対する分析が十分ではなかった。このような形にすることで重複した事業も見えてくるとしており、そういった点からもこのような形をとらせていただきたい。

<外部委員>

評価するという意味では、計画が明確にならないとなかなか評価できない。今の計画では、市民に対して具体的な数字を長期間に渡って示すことが難しい。具体的な数字が掲載できないという背景があることは理解している。そういう意味では、きちっとした計画を作った上で、それに対しての評価を行うという形にしているということに理解した。

<外部委員>

前回の会議での深い議論を踏まえて反映されていると認識している。そこでの議論の中で、(3)「持続可能な都市経営」の中で、基本財政のことが書かれており、前回もかなり議論になっていたと記憶している。この10年間で財政が健全化してきたことは理解しているが、財政は良くなったが、地域ががたがたになっては何の意味もない、という話や、ソーシャルキャピタルのような社会関係資本の話など、財政以外、お金以外の資本についても都市経営の中に組み込み、活動人口が増えるような取組を、という議論があった。このお金以外のところの話も、もう少しあっていいのではないかと思う。もちろん財政が健全化するのが一番素晴らしいが、それだけが全てにならないような表現になると非常に良い。

もう1点は少し細かいことだが、(2)「みんなで取り組むまちづくり」で、分かりやすい形で情報をしっかり発信したい、という話がある。別のことで市役所に情報をもらいに行ったとき、情報はあるが、紙で、しかもコピーしてもらわなければいけないものだった。「分かりやすい」と合わせて、CSV形式で提供されるなど、使いやすい形で出してもらえると市民側が何かを使うときにもよいと思う。少し細かいことだが、気になったのでお伝えしたい。

<外部委員>

(2)の「みんなで取り組むまちづくり」について、先ほども議論に出ていた、地域共生の概念をここでもう少し明確に出した方がいいと思う。

もちろん行政の取組だけでなく、市民の方々が参加されるということは、まさに共生の部分はあるが、それだけだと少し見えづらいところがある。行政としてこれをやるから市

民は参加していただきたいという形だけに留まると、自助・共助・公助という概念がうまくすくい上げられず、落ちてしまうように思う。市として参加していただくことは重要だが、地域の価値を作っていくことが行政の役割かと思う。せっかく検討されているので、そのニュアンスを入れた方がよいのではないか。

<部会長>

(2)に地域共生の共助のニュアンスをしっかり加えた方がよいというご意見があった。施策シートを検討する中で、どうしても対行政の話ばかりに終始したということで、この施策シートの中に「市民の取組」の欄もあったが、ここの議論がこの部会は少し弱かったかと反省している。

今おっしゃった横串のところに共助を入れていくというのはとても大事なことだと思うが、この施策シートの「市民の取組」の辺りも、この部会の中でもう少し議論を深めた方がよかったのではないかと思う。そこが深められていない反省が少しある。

やはり、自分の市の、自分たちの生活が関わってくる総合計画ということで、団体やNPOが市と連携していくことはとても大事だが、市民の皆様が自分事として捉えられるような施策シートになっていく必要があると思う。時間があれば、この「市民の取組」の辺りも考えていきたい。

その他、ご意見はあるか。

<外部委員>

(2)「みんなで取り組むまちづくり」だが、最後に「幅広い情報を収集し、発信することで、必要な人が、必要なときに、必要な情報を分かりやすい形で得られる環境づくりに取り組む」と書いてある。とても良いことが書いてあると思う。外国人は言葉に支障がある中で、いかに必要なときに必要な情報が手元に届くかということが大事だと思う。その中で、多言語的なサポートが必要になる。

あと、「市民意識調査」のところだが、市民の満足度、政策の実施による効果の検証が必要かと思う。私は外国人市民代表という立場で発言させていただいているが、実際住んでいる2000人の外国人市民がどのような意識を持っているのか、市の政策に関して満足度をどのくらい持っているか、どのくらい危機意識を持っているのか。ぜひ機会があれば、ニーズ調査と満足度調査をしていただければと思う。

<外部委員>

総合計画、前期基本計画の評価をされるときには、横串をきちっと評価されるといいと思う。全体を評価するというよりも、横に連なる議論があって、各施策だけではなかなか語れない部分において、この横串というのはすごく大事になる。この三つの横串を評価することで、取組が、非常に立体的に見えてくるかと思う。

<部会長>

今の評価の仕方については、先ほど事業単位で各施策をブロックとして評価していくというご説明があった。この三つの横串の評価について、何を以って達成なのか、どこまで何をしたら評価に値する結果になっているのかという辺りを、少し内部でもご検討していただくと、最終的に「こういう形で評価していく」という辺りに反映ができるといいかと思う。

<外部委員>

実はそういうのは政府も行っている。政策評価といった、一つの事業単位の評価は当然行うが、テーマ別評価みたいな形で、様々なテーマとして、横串でこのような形で取り組んでいるのはあるので、そういう観点から見ると、より施策が立体的に見えて、各施策の中では対応できていない、落ちているところもすくい上げられるので、皆様の取組がさらに評価される部分ではないかと思う。

<外部委員>

(1)の「SDGsの推進」に「地域課題への対応を考える際にトレードオフの関係となりがちな経済・社会・環境の3側面を統合的に捉え」とあるが、そのとおりと思う。その地域課題への対応を考える際に、経済・社会・環境の三つはトレードオフなのかが少し引っかかっている。何か地域課題を解決しようとする、経済や社会や環境を犠牲にして地域課題を解決しないといけないみたいな書き振りになっているのが少し気になった。

それと、「トレードオフ」という表現が一般的なのかというのが気になった。例えば、「プラットフォームビルダー」もあるが、ビルダーというのが少し引っかかるものの、プラットフォームというのはよく使われている言葉で、ビルダーというのはそれを構築する人という意味だから、何とか理解できると思う。ただ、「トレードオフ」はかなりハードルが高いような気がする。もう少し馴染みのある表現にしないと、結局言っている意味が伝わらないと思う。

それと、私は「トレードオフ」と言い切ってしまうといいのかということにも若干疑問を持っている。

<部会長>

三方よしもあるのではないかとということか。

<外部委員>

そのとおりである。

地域課題というのは、それこそWin-Winで解決していくということを趣旨として書いているとは思いますが、あまりそれが伝わってこない。「トレードオフ」という印象が強すぎて、「何かを犠牲にしてでも」という内容になるかと思うと、少し表現を変えていただいたり、「トレードオフ」というのをもう少し分かりやすい表現にさせていただいたり、Win-Winをもう少し前に打ち出してもいいかと思う。

<外部委員>

もう少し分かりやすい表現にしたらということかと思う。

この言葉は、実は政府や色んなところで使われている。その文章をそのまま写してきたとは言わないが、茂籠委員がおっしゃったように、少し冷たく感じる部分があるので、もう少し分かりやすくされるとよい。

<部会長>

その他に何かご発言はないか。

今、この「まちづくりの進め方」シートについて、議論しているが、少し前のところで、ここを言い忘れていたところもあれば、ご意見いただければと思う。

<外部委員>

次の議題はないのか。

<部会長>

今日はこの案件で最後になる。

<外部委員>

最後に全体的なことをお聞きしたいと思っていた。

この健康福祉・教育部会はこれで終わりであれば、ここでまだ読み込めていないものや、個人的に全体、基本構想の素案をもう一度読むと、自然環境と教育環境を池田市の魅力だと書いている割には、あまりわくわくしないというか、こんなに押し出しているのに、「池田市の教育はこうなるんだ」とは正直思えないというのが感想である。うまく日本語にはできないので、もし今後、意見や提案があった際に、いつまでに出せばいいのか、進め方がよく分かっていないので教えていただきたい。

<部会長>

基本的には3回の部会を経て、全体会に戻していくという予定ではあった。この辺、内部委員はいかがか。

<岡田副市長>

今、荒木委員からも言われたとおりなのだが、当初は3回で皆様から様々な意見を出していただき、それを反映した形で作成し、それをお目にかけていくという流れを考えていた。ご提案ということではないが、例えば、「母子包括支援」だったら「子育て世代包括支援」に変えて、その表題だけ変えたらいいのかというご意見をいただいた中で、結局どうなったかが分からないまま、お目にかかってしまう形になる。もしよろしければ、事務局の方で検討させていただいて、もう一度機会をいただき、皆様に再度見ていただく機会を与えていただけたらという想いでいる。

事務局の方からもう一回させていただけないかという願いをさせていただくかもしれないが、その節はぜひよろしくお願ひしたい。

<部会長>

先ほど、施策シートの中の「市民の取組」についての議論が不十分であったなど、今回は細かいシートを読み込む時間が足りず、十分な議論ができなかったという反省もある。再度部会を持つという方向で事務局にご検討いただくというので、皆様ご異議はないか。

(意見等なし)

それでは、そのような方向でお願ひしたい。

もう一度議論できる場があるであろうという前提で、もう少しご意見ある方はぜひご発言いただきたい。

<外部委員>

先ほどの学校教育の箇所、池田市の魅力として打ち出していく基本構想の文章が変わらないのであれば、この「取組の方針」の中で、池田市らしさみたいなものをどこから読み取ればいいのかというのが正直よく分かっていない。

総合計画なので、ある程度押し並べて書かざるを得ないのは分かっているが、池田市としては、教育の中でどこを魅力としてアピールしていきたいのか、特色として押し出していきたいとお考えなのかをぜひお教えいただきたい。

<部会長>

具体的にはどの辺りか。

<外部委員>

全体的な話で、まだ言葉にはできていないが、要は魅力として押し出していくからには、池田市の教育らしさ、特色みたいなものがここに入っていた方が、読んだ方に「だから池田市は教育環境が充実しているのか」「さらに充実していくのか」ということが伝わるような内容になっていくという思いがある。それが今の案では、いわゆる一般的なこと、おそらくどこの市でも取り上げていくようなことが書かれているように感じた。

<部会長>

郷土愛の涵養の箇所とは違うのか。学校教育の充実の部分で、池田市らしさとは何かということか。

<外部委員>

そのとおりである。

市民意識調査でも、教育に一番魅力があって市民もそう感じていると出ている。基本構想でも押し出していくのであれば、様々な施策がある中でもかなり力が入っていないといけないと思っている。

<部会長>

池田市を特徴付けられるような「学校教育の充実」の中の表現がどこかということか。

<外部委員>

そのとおりである。

<外部委員>

市民の方が市の課題や市が目指す方向を自分ごとと考えるときには、おっしゃったような観点が入ると、より市民のオーナーシップが出てくるかもしれない。

私も来るときに、五月山などを見渡すととてもきれいなまちだと思う。そういう住みやすそうなまちだからこそ、自分がこういう立場で、計画に反映できているのかというところを少し考えながら来たものだから、今、荒木委員がおっしゃったようなことはよく分かる。

おそらく取り組むべきエッセンスは入っている。しかし、市民の方が、郷土愛だけではないが、様々な課題などに共感して、自分ごととして考えられるかということ考えた場合、そういうものを入れた方がいいのではないかというご意見かと思う。

<部会長>

子育て世代が元気になるまちというのは、今後活性化していきやすいということで、「こんなところに住みたい」「こんな環境のいいところで子育てできて、もっと充実していけそう」という期待や希望の持てるような表現になるようにご検討いただきたい。

<外部委員>

池田市の魅力として、子育てしやすい、教育環境が良いということで、現在、中国の子育て世代の中で少し認知度が上がっている。相談に来られた小学校1年生と幼稚園年少のお母さんも、大阪南部に住んでいたが、教育環境が良いところを考え、北部地域を検討されていた。梅田周辺は少し高いので、調べていると、池田市が割と交通の便がよく、教育重視で、子育て支援がとても充実しているということで引っ越してきたとのことだった。

他にも何組かが新しく移住してきたという話も聞いている。ぜひそこを外に向けて発信していただければ、おそらく皆さんが魅力を感じるまちになってくると思う。

<部会長>

外国人の人にも住みやすいはもちろん日本人にも十分住みやすいという辺りがアピールできるのではないかと思う。私はこの審議会の委員をお受けしたときに、「池田市のいいところをたくさん見つけたい」ということを事務局にお伝えした。やはりそういう視点があ

って、こんなに良い市だということが総合計画の中にも反映できれば素晴らしいと思うので、ぜひそういう視点で見ただければと思う。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思う。

3. 閉 会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

<事務局>

次回、部会を1回追加するという事で、日程調整をさせていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。

次回の案件は、今回頂戴したご意見等を踏まえて、シートに落とし込んだ形で審議を予定しているので、よろしく願いしたい。

以上をもって、池田市総合計画審議会、第3回健康福祉・教育部会を終了させていただきます。

以上